

第2学年 社会科学習指導案

日時 平成29年9月28日(木)
学級 花巻市立東和中学校 2年1組
(男子13名 女子14名 計27名)
授業者 教諭 伊藤俊勝

1 単元名 第4章 近世の日本 第3節 産業の発達と幕府政治の動き

2 単元について

(1) 教材観

本単元は、中学校学習指導要領の歴史的分野(4)近世の日本の(エ)社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどを通して、幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解させることである。江戸時代前半で幕府は、鉱山の直接支配や全国の石高の1/4を支配し、さらに大名統制や鎖国による対外政策、身分制度の確立により、安泰な社会を築き上げた。それはまた、農業技術の進歩による米の生産量の増加、工場制手工業にみられる生産手段の変化、貨幣経済の浸透、教育の普及などをもたらし、人々の暮らしや町人文化の形成などに影響していく。

しかし、江戸中期になり新田開発が一段落すると、いわゆる「停滞の時代」となり、幕府は財政難の克服に苦勞する。米の生産増加に限界が生じた上に、貨幣経済が発達した時代にあつて、三度の政治改革では重農主義の政策は適当とはいえない。人口が増加せず米の需要が一定となったこの時期、米が豊作となれば米価は値下がりし、米で支払われる武士への実質的な収入は減少する。一方、米価が高くなるのは凶作の年で、税収入を確保するために無理に年貢徴収すれば、大規模な百姓一揆が発生してしまう。つまり、米を基盤とする年貢収入に依存する限り、幕府の収入は安定的に増加しないという状況が生まれていたのである。

ところが、年貢収入への依存を続ける幕府は、米以外への課税を十分に行わなかった。そのため、町人や百姓にも出された倹約令は、生活が苦しい武士階級には有効でも、米作以外で十分に収入を得ている町人や百姓にとってはあまり意味がなく、天災や飢饉の影響もあり、不満だけが高まる結果となり、諸改革は失敗し、幕府政治の行き詰まりへとつながった。

一方、財政再建の改革に成功させた藩が登場した。中でも、薩摩藩や長州藩は特産品の専売制などから得られた利益で財政を再建し、負債を整理し、近代化を進めた。改革を成功させたこれらの藩は、のちの明治維新を成し遂げる原動力となっていく。

この単元では、社会の変動や欧米諸国の接近など、国内外の諸問題に対応する江戸幕府の政治改革が次第に行き詰まりをみせるようになっていくとともに、新しい学問や思想が次第に庶民にも広まっていく過程を学習する。幕藩体制が動揺し、倒幕へと向かっていく大きな時代の流れを、武士や百姓、町人などの立場から、多面的・多角的に考えさせていきたい。

(2) 生徒観 ※数値は県学習定着度調査結果(平成27年度、平成28年度)の県比較

2年生は地理的分野より、歴史的分野の方が興味・関心がある生徒が多い。全体的に、生徒は素直ではあるが、直感的に行動する生徒が多くみられる。平成27年、28年の県学調の結果から共通していることは、「世界の六大陸の位置と名称の理解」(-4.9、-3.4)、「西暦からその年が何世紀であるか読み取る」(-0.7、-6.8)ということから、基礎的な用語を関連する授業の内容時に確認することが必要と考え、取り組んでいる。また「世界の住居について資料をもとに読み取る」(-6.7、-4.6)、「複数の資料を読み取り説明する」(-7.7、-12.1)という傾向は、一学期の中間・期末テストより同傾向にあり、グラフや表、文などの資料から読み取り、自分の言葉で、分かりやすく他者に伝えることを苦手とする生徒が多くみられ、本校の大きな課題となっている。

(3) 指導観

本単元に関して、小学校では、家康・秀忠・家光の三代による様々な改革が功を奏し、天下太平の時代となったことを学習した上で、歌舞伎や浮世絵などの町人の文化が栄えたこと、国学や蘭学などの新しい学問が起こったことを深く学習している。しかし、様々な政治改革については、学習を行っていない。よって、江戸幕府の政治の内容をしっかりと捉えさせるとともに、「江戸幕府の政治はなぜ行き詰まったのか」という課題について考えさせ、その原因といえる当時の社会構造の変化を大まかに捉えさせていきたい。

この単元の資料は、江戸中期から後期までを示すものが多いので、その読み取りを丁寧に行い、その変化を捉えさせたい。また、複数の資料から関連づけて説明することもさせていきたい。

みんなの前では発表しにくい、考えに自信がない、などと思っている生徒も多いので、ペアやグループでの学習で根拠を確認する活動を取り入れながら、意欲的に取り組ませたい。

3 単元の指導計画

(1) 単元の目標

- ① 産業や交通が著しく発達し、町人文化や各地方の生活文化が形成されていった様子を理解させ、それらが発達した理由を考えさせる。
- ② 安定した社会が次第に変化し、行き詰まっていく原因について、社会の仕組みや経済の変化などから考えさせる。
- ③ 江戸時代における学問の発達を理解させ、その中に新しい時代を切り開く動きがみられることに気付かせる。

(2) 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がり、社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどに対する関心を高め、課題に対して意欲的に迫っている。	産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がり、社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどについて考察し、その過程や結果を適切に表現している。	産業や交通の発達、教育の普及と文化の広がり、社会の変動や欧米諸国の接近、幕府の政治改革、新しい学問・思想の動きなどに関し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり、図表などにまとめたりしている。	・町人文化が都市を中心に形成されたことや、各地方の生活文化が生まれたことを理解している。 ・幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。

(3) 指導計画と評価計画

時間	学習内容	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
1	農業や諸産業の発達	諸産業が発達した理由、それが運輸業にも影響していくことを意欲的に追求している。	諸産業が発達した理由を政治の安定や新田開発などと関連させて考察し、まとめている。		
2	交通路の整備と都市の繁栄		江戸時代に交通や都市が発達した理由を、五街道の起点、都市への物資の流通などから考察し、まとめている。		産業や交通の発達によって貨幣経済が進展し、財力をつけた町人の力が増していったことを理解している。
3	幕府政治の安定と元禄文化	綱吉の政治がその後の社会にどう影響したのか意欲的に追求している。		文学作品や「見返り美人図」などから、元禄文化の特色を読み取っている。	綱吉の政治がそれまでの武断政治から文治政治へと転換したことを理解している。
4 (本時)	享保の改革と社会の変化	政治改革の内容を意欲的に追求し、まとめている。	グラフや資料等から、それぞれの身分に関わることをみつけ、関連付けてまとめている。		吉宗の政治改革について調べ、そのあらましを理解している。
5	田沼の政治と寛政の改革		田沼意次の政治と松平定信の政治を比較し、財政政策の違いなどについて考察し、説明している。		「北方探検」を基に、蝦夷や樺太の探検が行われたことを知り、幕府の対外関係の在り方を理解している。
6	新しい学問と化政文化	国学と蘭学の考えがその後の社会にどう影響したのか意欲的に追求している。	国学と蘭学の発達や化政文化の特色について調べ、新しい学問や文化が生まれた背景を考察し、説明している。	「藩校と寺子屋の広がり」を基に全国に教育施設がつくられていったことを読み取っている。	
7 8	外国船の出現と天保の改革	外国の接近とそれに対する幕府の対応について意欲的に追求している。	大塩平八郎が乱を起こした理由や天保の改革の内容を調べ、幕府政治が行き詰まっていたことについて考察し、その過程や結果を説明している。		外国の接近とそれに対する幕府の対応についてまとめ、幕府に新たな課題が生じたことを理解している。

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ① 徳川吉宗の行った享保の改革について、内容を図版や資料から理解する。
- ② 享保の改革の頃やその後の社会変化について、改革との関連性について考察する。

(2) 本時の指導の構想

享保の改革の内容を個人でまとめさせ、さらにペア・グループでの確認することにより、改革の内容を理解させたい。その上で、学習課題について予想させる。様々な改革が行われ、生徒の視点が目安箱の設置や、民間人にも適用される公事方御定書をつくらせたことなどにいくことも考えられるが、よいと考えた理由をあげさせながら、改革の内容の定着を図りたい。

改革の一番の課題である「財政再建」のことについては、資料集の資料を使い、改革の成果を考えさせたい。改革により、新田開発をすすめ、石高も増えるものの、日本の人口増加が止まり、豊作になると米価が下落し、百姓の収入が減少することで百姓の不満が高まる。それが百姓一揆の増加につながる。逆に、凶作になると、米価が上昇し、買い手の町人の不満が高まり、打ちこわしの増加につながる。さらに、ききんが起きたこと、「堂島の米商い」から、米の値段が決められたこと、吉宗が米の買い占めによって米の流通量を減らし、米価をあげようとしたことを紹介するなど、貨幣経済が徐々に発展していることを感じさせたい。

また、農村での商品作物の栽培、農具や肥料もお金で買う時代になってきたことから、農村でも社会が米中心の経済から商品中心の経済に移行し始めたことに気付かせたい。

享保の改革を全否定するのではなく、改革の良い点とうまくいかなかった点をあげ、その理由をまとめさせたい。

(3) 本時の評価規準

	おおよそ満足	支援の手立て
思考・判断 ・表現	グラフや資料等から、「武士」「百姓」「町人」に関わることをみつけ、それぞれ関連付けてまとめている。	グラフや資料等から、それぞれの身分に関わることをみつけ、抜き出させる。
社会事象についての知識・理解	享保の改革の内容、その成果について理解し、その知識を身につけている。	ペア学習による確認

(4) 本時の展開

段階	学習内容	学習活動	指導上の留意点 <div style="font-size: small;"> 考 自分の考えを持つ場面 学 学び合う場面 書 意図的な書く活動 ◇支援 ◆評価 </div>
見通す 10	1 「改革」の意味を確認する。 2 「享保の改革」の内容をまとめる。6分 (学習課題) 享保の改革を、当時の人々は歓迎したのだろうか？	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単にあげる。「『政治改革』だから改善すること」「新しくなること」 ・プリントへの記入 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料5から江戸時代に3つの改革が行われたことに気づかせる。 <div style="font-size: small;"> 書 教科書から改革の内容をまとめる。 学 ペア・グループでの確認 言葉が足りないところは書き足す。 ※青枠で課題を明記しているか。 </div>
解決する 25	3 「武士」「百姓」「町人」にとって、改革はどうだったのか、理由をあげ、予想する。 4 享保の改革のねらいをおさえ、改革の成果を考える。 5 課題のまとめ (学習のまとめの例)	<ul style="list-style-type: none"> ・目安箱を設置するなど、庶民の意見を聞いたのでよい将軍。 ・ききんに備え、さつまいもを植えさせるなどして農民のことを考えている。 ・少しずつ百姓一揆・打ちこわしの発生件数が増えているのでよくない。 ①資料3「目安箱」に入っていた意見から、吉宗の改革を考察する。 ②3つの資料「日本の人口」1600年～1980年、「耕地面積の増加と米の収穫量の推移」、教科書資料「百姓一揆・打ちこわしの発生件数」のグラフからわかることをあげる。 ③なぜ「百姓一揆」や町人による「打ちこわし」が起きたのか、考察する。 豊作⇒米価下落⇒百姓一揆 凶作⇒米価上昇⇒打ちこわし	<div style="font-size: small;"> 考 改革の内容や資料から考える。 ◆改革の内容から理由をあげていることを評価する。 書 グラフから読み取ったことをまとめる。 ◇個への支援 ・1つずつの資料から読み取れることをあげる。 ※赤枠でまとめを明記したか。 </div>
振り返る 5	[武士] 将軍自ら儉約に努めたので、我々も儉約しなければならないので大変。目安箱の投書により将軍が実施を決定すると仕事が増えるので迷惑だ。 [百姓] 年貢率が上がり、さらにききんとなっても同じ量の年貢を払うことになり大変。農具や肥料を購入しなくてはならず、豊作になっても米価が下落して生活が楽にならない。何とかしてほしい。 [町人] 商人が米の買い占めをし、米価が安くならない。ききんのときには米価が上昇し買えない。目安箱は役に立っていないのでは。	6 振り返り ・享保の改革は100点中どれくらいか。「武士」「百姓」「町人」のどの立場で、また理由をあげて発表する。	◇学習したことで気づいたことや、貨幣経済が農村へ広がり、またききんなどにより、近世社会の基礎が動揺していったことにふれさせたい。